

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年5月7日

【評価実施概要】

事業所番号	2990500023
法人名	株式会社ニチイのほほえみ
事業所名	ニチイのほほえみ橿原醍醐
所在地	〒634-0072 奈良県橿原市醍醐町156 (電話) 0744-21-3711

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年4月21日	評価確定日	平成20年6月25日

【情報提供票より】(平成20年3月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ 平成 18年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 12 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 14.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	(有) 180,000 円	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		640 円

(4) 利用者の概要(平成20年3月14日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 87.1 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	井上クリニック・西川歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

株式会社ニチイのほほえみが開設するグループホームのひとつである当該ホームは近くに藤原京跡もあり、歴史を感じさせる町並みの中にあります。入り口付近には季節の花が、また庭の畑には野菜が植えられ、利用者が職員と毎日世話をしています。利用者・家族の希望を基にケアプランが作成され、プランに添ったケアを常に心がけ、日々のサービスの中で理念が活かされ、寄り添うケアを大切に時間を持つようにしています。また職員が自主的に委員会を立ち上げ勉強会を重ねることでサービスの質の向上に努めています。自治会総代から地域の情報を提供してもらったり、近隣の方から野菜を頂くなど、地域との関係も密なものとなっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価については職員間で話し合いの場を持ち、改善に向けて取り組まれています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価はリーダー等の意見を聞きながら、管理者が作成しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に一度、家族、自治会総代、民生委員、市担当者、介護相談員、地域包括職員、管理者、職員等により開催されています。また家族会を同時開催することで積極的に利用者・家族の希望や意見を取り入れ、家族の負担軽減を図っています。会議では活動報告や市職員とのやり取り等活発な意見交換が行なわれています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	フロア新聞を毎月作成し、利用者の暮らしぶりや活動予定を毎月家族に報告しています。2ヶ月に一度家族会を開催し、利用者・家族の意見の反映に努めています。家族からの希望・要望についてはスタッフ会議で常に話し合わせ、次回の家族会で報告・対処しています。また橿原市より介護相談員を受け入れています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に入会しており、回覧板も回ってきます。近隣の方から野菜を頂いたり、地域主催のお花見会や行事に参加しています。また、自治会総代が折りに触れ来訪下さり、情報を得ています。今年度は年2回の地域清掃に利用者と共に参加したり、老人会に働きかけて交流する予定にしています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社是、法人としての経営理念は玄関、事務所に掲示し、地域密着型サービスの意義や役割についての話し合いを行なっているが、事業所独自の理念を作り上げるには至っていない。	○	地域でその人らしく安全で安心な暮らしを継続する為に、何が大切か職員で考え、事業所独自の理念を作りあげられることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の理解と共有について、ケース会議・ホーム会議等で話し合い、利用者との関わりの中で、自分本位でなく利用者本位の介護を心がけている。日々のサービスの中で理念が活かされ、寄り添うケアの中で関わる時間を持つようになっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会しており、回覧板も回ってくる。近隣の方から野菜を頂いたり、地域主催のお花見会や行事に参加している。また、自治会総代が折りに触れ来訪下さり、情報を得ている。今年度は年2回の地域清掃に利用者と共に参加したり、老人会に働きかけて交流する予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム便りの発行が課題であったが、フロア新聞を毎月発行し家族に送る等の改善を図っている。また今回の自己評価はリーダー等の意見を聞きながら管理者が作成しているが、全員の意見の反映とはなっていない。	○	自己評価については全職員で取り組み、それを基に話し合い、日々のケアを振り返ることが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、家族、自治会総代、民生委員、市担当者、介護相談員、地域包括職員、管理者、職員等により開催されている。また家族会を同時開催することで、積極的に利用者・家族の希望や意見を取り入れる場としている。会議では活動報告や家族からの要望、市職員とのやり取り等活発な意見交換が行なわれている。		

ニチイのほほえみ榎原醍醐

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受け入れ、サービスの向上に努めている。今後は地域包括、市担当者に働きかけ、月に一度医療面での勉強会を開催する予定である。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	フロア新聞を毎月作成し、利用者の暮らしぶりや活動予定を毎月家族に報告している。金銭管理については立替金とし、収支報告している。利用者に変化があればその都度連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一度家族会を開催し、利用者・家族からの意見・要望を聞いている。家族の要望により名前がすぐ分かるようにスタッフの名前入り写真をフロアに掲示する等、意見の反映に努めている。また市より月に一度、介護相談員を受け入れている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は技術面・精神面において、一人で悩むことなく相談できる関係作りを大切にしており、職員との話し合いの機会を多く設けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間でレクリエーション委員会、ケア委員会など勉強会を自主的に行ないサービスの質の向上に努めている。4月からは法人のスタッフ導入研修に参加を予定しているが、外部研修等習熟度に応じた研修は行なわれていない。	○	職員の質の確保・向上の為に段階に応じた研修が定期的に行なわれるよう計画を立て、職員全員が定期的内外の研修を受けられるような体制作りが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	榎原市社会福祉施設連絡会に参加している。今後は他ホームとの連携を図り、勉強会の機会を持てるよう働きかけていく予定である。		

ニチイのほほえみ榎原醍醐

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にはホームの見学をし、他の利用者と交流してもらったり、管理者が自宅訪問や利用中のデイサービスまで会いに行く等、利用者職員との馴染みの関係作りに配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑での野菜作り、肥料のやり方や、囲碁、針仕事や昔の事を教えてもらう等、利用者から学ぶことも多く、支えながら共に過ごす時間を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴や希望・意向については、家族から情報を得たり、日々の生活を観察しながらしたいことの把握に努めている。またケース会議で話し合い、利用者のさりげない行動からニーズを探るよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	初回訪問は施設長・ケアマネジャーで行い、入居時カンファレンスは全職員で行い利用者・家族の意見を基に介護計画に反映している。センター方式を改良し独自のアセスメントシートを採用している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行なっている。また体調の変化があるときはその都度ケース会議を開き、見直しされ、ケアプランの変更時には家族に連絡し同意を得ている。また常にプランに添ったケアの実現のため、業務日誌、チェックシートで確認している。		

ニチイのほほえみ榎原醍醐

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	月に一度の訪問による理美容、利用者や家族の状況に応じた通院や送迎、買物の同行など柔軟な対応を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回のかかりつけ医・歯科医の往診が行なわれている。また以前のかかりつけ医を希望する利用者については継続してもらっている。往診時は家族に連絡して立ち会ってもらうなどの支援をしている。来られない家族については主治医と面接する機会を設けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期については主治医、家族と話し合い、出来る限りの支援を心がけている。また今後はスタッフの力量や主治医の協力が不可欠なため、ミーティングや勉強会で話し合いを続けていく予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の対応については馴染みの関係を大切に配慮しているが、親しさゆえの言葉かけに「ちゃん」づけで呼んだり、ニックネームの声かけが散見される。書類については事務所のロッカーに保管管理されている。	○	ミーティング等で話し合い、個人の尊厳を守る意味合いからも利用者に対する言葉遣いには十分に気を付け、慣れなれしくなり過ぎない関係作りが期待される。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	好きな時間に起きて朝食を取ってもらったり、畑仕事や日々の役割を取り入れたケアプランを作成し、十分な睡眠が取れるよう生活リズムを整える支援をしている。		

ニチイのほほえみ榎原醍醐

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物から始まり、下ごしらえ、味付け、後片付け等、利用者と職員が一緒に行なっている。ホットケーキ、プリン、ねぎ焼き等おやつ作りも楽しんでいる。食事中は職員は介助等は行なっているが、同じものを同じ場所で食べる事はなされていない。	○	食材費の負担や休憩時間等の配慮等、課題も含めた上で話し合いを重ね、味見を兼ね一人でも同じ物を食べれる事の検討がなされるよう期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎朝いつでも入浴できるように、湯船に湯を張っている。基本的に週3回以上は入ってもらようよう支援している。また入浴拒否がある利用者については、脱衣所に好きな民謡のテープをかけるなど、入浴しやすい配慮を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器洗い、お茶いれ、洗濯物たたみ、花の水やり、雑草抜きなど利用者同士で役割を決めている。また塗り絵や毎月のカレンダー作りをしたり、揃ってビデオ鑑賞をしたり口腔ケアの一環として歌を歌うなどしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	順番に食材の買物に出かけたり、毎日のように散歩している。あまり外出したくない方は、庭の畑仕事やデッキにて日光浴を楽しむ等常にケース会議で話し合い、利用者の意向に添って支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、1階の鍵は掛けていないが、2階フロア入り口は安全確保のために鍵を掛けている。家族にも話し理解を得る努力をしている。また利用者が出かけたときは一緒に出かけるようにしており、シフトの関係もあるが、体制を整えば鍵をかけない方向で話し合っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、2階での出火を想定して利用者参加の下、避難訓練を開催している。次回は運営推進会議にて自治会長を通じ、消防団や近隣の方々にお集まりいただき、参加を呼びかける予定である。		

ニチイのほほえみ榎原醍醐

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てたバランスの取れた献立に基づいて調理がなされている。食事量、水分量はチェックリストに記入し管理され、刻み食やトロミ食等、個人の状態に応じて食べやすいように工夫されている。また利用者の希望によりメニューの変更も行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前に置かれた季節の花や広い庭にはデッキや畑があり、利用者がそれらの世話をしている。リビングには行事の写真が貼られ、居室前には利用者の作品が飾られ、時々張り替え季節感が感じられるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼット付きの居室へは馴染みの品を好きに持ち込めるようになっている。じゅうたんの上にベッドを置いたり、たたみを敷き詰め布団で寝たり、家具、テレビ、こたつを置き、アルバムや家族の写真を飾るなど、以前の生活を大切にしたい配慮がなされている。		